

報道関係各位
インタビュー資料



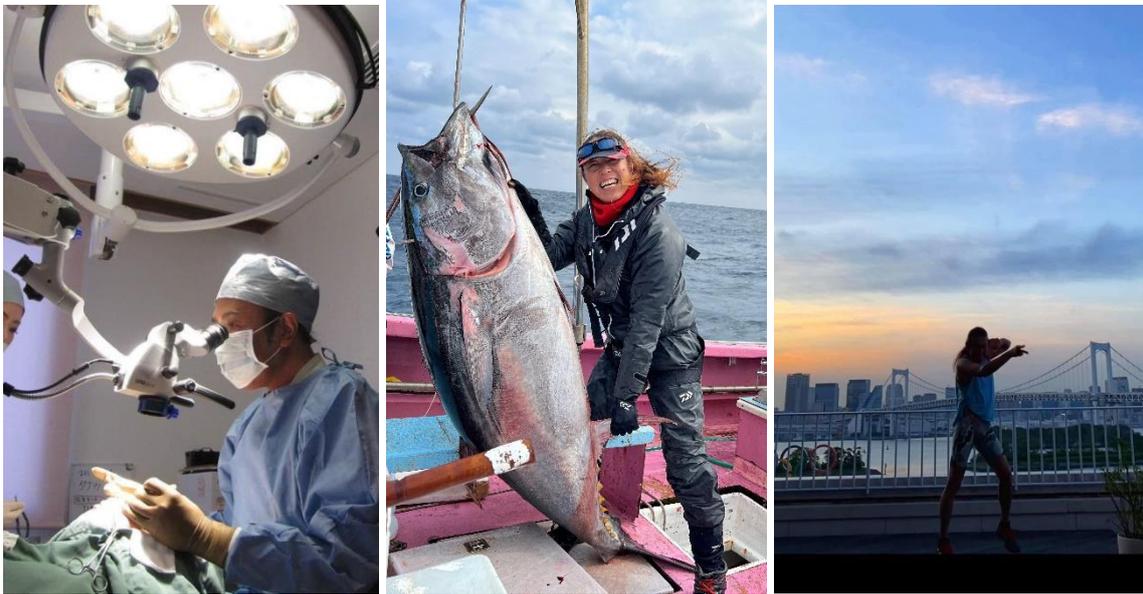
ロンリー侍ドクター 近藤惣一郎医師

東京都内と大阪に「SO グレイスクリニック」を開院し、今年で17年目を迎える。医療法人社団理事長、美容外科クリニックの経営者であり、診療を行う医師である。安易に流行の治療法を提供するのではなく、自ら2時間の無料カウンセリングを行い、一人一人の悩みの原因に寄り添った正しい美容医療の提案、実践を行っている。

京都大学を卒業して44歳までの20年は脳外科医として、脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷等の治療を第一線で行っていた。学会発表論文執筆も多数。2007年に美容外科医に転身、脳外科医としての知識と技術を活かし「切らない目の下のクマ・たるみとり」「切らないお顔の引き上げ術・クイックチタンペックリフト®」など顔の若返り美容外科医として、第一線で活躍し続けている。

本業の傍らフィッシング総合メーカー「DAIWA」の沖釣りプロアングラーとしてマグロ・カンパチ・ヒラマサなどの大物をターゲットに20年ほど活動している。またパラパラダンスを踊ってインスタグラムにアップするのが日課で、毎日欠かさずに10年間続けている。

脳外科医から美容外科医への転身、長身で長髪の外見と多才なキャラクターが注目され「ロンリー侍ドクター」として多数のTV・メディアにとりあげられている。ロンリーとは「ずっと一人で、患者と1対1で向き合う」という意味から付けた。業界に群れる事なく、お客様の課題解決に真剣に取り組んでいる。



中央) 釣りは名人級の近藤惣一郎医師、右) 10年間欠かさないパラパラダンス

【資格】

医学博士（京都大学大学院）
日本脳神経外科学会専門医・評議員
日本美容外科学会（JSAS）専門医
日本抗加齢医学会会員
第11回 日本脳神経外科コンgres 優秀ビデオ賞 受賞
第6回 脳神経外科手術と機器学会 優秀展示機器 受賞

【経歴】

1963年 1月 11日 生まれ
1981年 岐阜高校 卒業
1988年 京都大学 医学部卒業
同年 同大学 脳神経外科入局
1995年 京都大学大学院 博士課程修了
1996年 国立循環器病センター研究員
2000年 東京女子医科大学・非常勤講師、倉敷中央病院、大阪赤十字病院、市立長浜病院勤務、東京女子医科大学、日野記念病院脳神経外科勤務
2003年 函館脳神経外科病院 勤務
2007年 大手美容外科クリニック勤務

2010年4月 SO グレイスクリニック御殿山 開院 院長就任

同年10月 SO グレイスクリニック大阪 開院

第11回 日本脳神経外科コンgres 優秀ビデオ賞 受賞

第6回 脳神経外科手術と機器学会 優秀展示機器 受賞

【経歴】

1963年 岐阜県に生まれ

1988年 京都大学医学部卒業、同年、同大学脳神経外科入局

1995年 京都大学大学院 博士課程修了

1996年 国立循環器病センター研究員

2000年 東京女子医科大学・非常勤講師、倉敷中央病院、大阪赤十字病院、市立長浜病院勤務、東京女子医科大学、日野記念病院脳神経外科勤務

2003年～ 函館脳神経外科病院勤務

2007年～2010年2月 湘南美容外科クリニック勤務

【所属学会・資格】

日本脳神経外科学会専門医・評議員

日本美容外科学会専門医(JSAS)

日本抗加齢医学会会員

【主な出演経験】

フジTV：アウトデラックス、全力脱力タイムズ

日テレ：しゃべくり7、それって実際どうなの課

関テレ：マルコポロリ、ウラマヨ、ありえへん世界、釣りビジョン

テレ東：ザ フィッシング

など

■ロンリー侍ドクター 近藤惣一郎のストーリー



京都大学時代の近藤惣一郎医師（右写真、中央）

人々の笑顔と豊かな人生を創りたい

京都大学医学部 脳外科顕微鏡手術の父、菊池晴彦先生との出会い

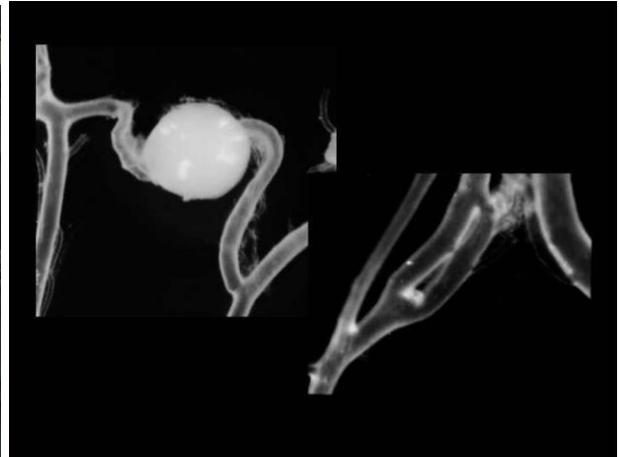
私が若い頃に入局した京大脳外科教室は、脳外科顕微鏡手術の父とされる菊池晴彦先生が国立循環器病センター部長から同大学教授に就任された直後でした。菊池教授は私の人生の礎を築いていただいた恩師です。「医師は自分のためではなく、患者のため、社会のためにある」をモットーに、医師として、人間としても大きく懐の深い存在でした。

また素晴らしい先輩や同僚医師に囲まれ、専門知識と技術を学び、特に地方の関連機関病院赴任時は、医師の数が少ない中、主に脳卒中という救急医療にて 24 時間、フル活動で従事しました。

大学院での研究生活以降、精神的な変化が訪れる

京都大学大学院では、世界で初めてラットやモンキーに脳動脈瘤（くも膜下出血の原因となる血管のこぶ）を作成することに成功したグループに属し、ヒトの脳動脈瘤の発生メカニズムを解明する研究に携わる機会を得ました。世界でまだ解明されていない真実を探求し、解明し、発表していく日々でした。

その中で、真実を明らかにするためには、物事の内側、本質を深く見つめることが重要であることを学び、自分という人間は何者で、何を人生で行いたいのか、脳外科医としてではなく、一人の人間として“自分を知る”ことが大切であると気づいたのです。



左) 脳外科医時代、右) ネズミや猿の脳に動脈瘤を作った写真 (大学院の研究)

山村地域での訪問診療をしながら、自分らしい生き方を考えはじめる

西暦 2000 年を超えた頃から数年間、滋賀県の山村地域の病院で救急医療から距離を置き、訪問診療や老健施設の患者さんを診ると同時に、自分の時間も持ち、三重や福井の海に毎週でかけ、子供の頃から好きだった釣りをを行うようになりました。この時の経験が、後のプロアングララーとしての経歴に結びつくのです。

山村での訪問診療のなか「自分は人に喜んでもらうことが大好きな人間。形にこだわらず、この地域で一般医療の開業をして、地域の人を診療しながら、自分らしく笑顔で生きよう」と考えるようになり、大学や大きな病院でのポストを目指す道から自ら遠ざかり、自分の道を進み始めました。

人生の転機が訪れる。美容外科医としてスタート



美容外科医に転身した近藤惣一郎医師

2006年、二人の子供を連れて行ったディズニーシーで、運命の転機が訪れたのです。老若男女がああ素晴らしいショーを観たとき、一瞬で心からの笑顔になる光景を目の当たりにして美容外科転身を決意しました。

医師として人の病を治し、人命を救うことは崇高で大切なことです。しかし、病気ではなく、生まれ持ったものや加齢によって生じた顔や身体の悩みも、注射や手術といった医療でしか解決できないことがあります。

美容外科医になれば、病気に罹った人だけでなく、もっと多くの方々の笑顔を作り、幸せになって喜んでもらえる、前向きな医療ができると考えました。脳外科で20年間努力してここまで来たのだから、同じ20年を65歳まで費やしても、必ずやり遂げられると確信しました。

大手美容外科クリニックでゼロからスタート

2007年、私は独り上京し大手美容外科・湘南美容外科クリニック（SBC）に入職しました。SBCは今では巨大な組織に成長しましたが、当時は全国でも医師は10名ほどで、院長も35歳、他の常勤医師も30歳前後でした。

病気ではない患者の悩みを医療で治療改善する美容外科は、私が20年就いてきた脳外科とは来院される患者も医療システムも大きく異なるため、私は研修医として先生方を先輩として敬い、看護師、カウンセラーさんを含め、全ての方から学ぶ気持ちで勤めました。

20年の脳外科医の経験で得た知識と技術を活用。独自の美容外科医療へと前進

3ヶ月の研修期間を経てあることに気づきます。システムは異なっても、美容外科も脳外科も患者さんの身体の悩みを注射や手術といった医療で改善する点ではまったく同じものであるということです。

私は美容外科医としては新米だけど、20年のキャリアがある脳外科医。新しい環境の中でも、多くの方々のお陰で修得した脳外科医としての知識と経験、技術をこの分野で活用すれば、ゼロからのスタートではない。むしろそれまでの美容外科とは違った、独自の美容治療・美容外科医療を行えると確信したのです。

新しい美容外科手術「チタンペックリフト®」の開発

2007年、男女の性差なく多くの人が悩む目の下のたるみを、皮膚には傷を作らず、下まぶたの裏側、赤目結膜に小さな窓を設け、脳外科頭微鏡手術の技術で治療する「切らない目の下のたるみとり」を美容外科医に転身して発案しました。

また同年 10 月には、顔には傷を作らずに頭皮を引き上げた糸を、側頭骨に固定したチタン性の極小ネジに引っ掛け、フェイスラインを引き上げる、脳外科医としての知識と技術が集結した**オリジナルの美容外科手術「チタンペックリフト®」**を開発しました。同治療名は商標登録され治療法も次々進化バージョンアップし 17 年間で 2000 症例を超えます。

骨格を修正する長期持続性カルシウム製剤フィラー注射「レディエッセ®」を採用

また脳外科医で修得した顔面・頭頸部の解剖学の知識から、リスクのある脆弱な皮膚にはアプローチせず、人間本来の顔貌の土台となっている骨格を修正する長期持続性カルシウム製剤フィラー注射「レディエッセ®」（MERZ AESTHETICS 社製／2007 年米国 FDA により安全が承認される）を、鼻、顎、額、頬骨などに使用し、顔のバランスにフォーカスする美容理論に基づいた治療を行っています。その技術は国際的にも認められ、海外でセミナー講師も務め世界一の症例数を重ねています。

美容外科として開業以来、14 年間 1 対 1 の医療を続けている

2010 年に独立開業。多くの美容外科が複数の医師を雇い全国展開するなか、全国だけでなく海外からも訪れる全ての患者を、1 対 1 で私自身がカウンセリング、施術治療、アフターケアを一貫して行い、東京品川と大阪江坂で展開しています。

これまでに「切らない目の下のたるみ取り」の症例数は 2 万件、「チタンペックリフト®」は 2000 件に達します。

■近藤惣一郎からのメッセージ



品川・御殿山にあるクリニックは完全予約制

私は、顕微鏡手術を含め脳外科専門医として 20 年活動する中で、京大を含め、良い環境の中で、素晴らしい先輩、恩師、指導者から学びを受け、正しい解剖学の知識、手術技術を身に付けることが出来ました。

近年、若い医師の中には美容外科医を志す者が増えています。しかし、美容外科の専門教育を提供する大学はほとんどありません。そのため、十分な知識や技術がないまま美容クリニックに勤める若い医師が多くいます。大手美容外科クリニックは競争の中で多店舗展開を目指し、未熟な医師でも積極的に採用しています。その結果、トラブルのリスクが高まっています。また医者としての成

熟度は単に、解剖の知識や注射・手術の技術だけではありません。人の身体、命、人生を扱うという医師として、人間としての責任感が重要になります。

医師としての責任感はどこから生まれ、大きくなってゆくのか

責任感が生まれるのは、すんなりと治療が上手く行った時ではありません。治療した患者の結果が思い通りに行かず、不十分だったり、患者が満足しなかったり、すれ違いが起きたり、患者から修正や説明を求められるといったトラブルが生じた時に、そこから逃げず、前を向いて、患者さんと一緒に正しいゴールに向かう努力を重ねることで、責任感が身に付いてゆくのです。事前に説明したものと治療後の結果に明らかな違いがある場合は、その原因を分析し、患者さんに説明し、善処するための努力をしなければなりません。もしこちらに落ち度があれば謝罪する必要もあります。それが医師としての責任です。

安全で正しい美容医療を受けられる日本を目指して

私は脳外科医として働いた 20 年、そして美容外科医の 17 年、自分が行った医療行為で上手く行かなかったとき、困難に遭遇したとき、それから逃げることはせず、一人の医師として立ち向かい続けることで、少しずつ成長し、人間力を付けてきたと思います。逃げ道を断ち一人でやり続けてきたからこそ、責任感を持つ医師として美容外科クリニックを継続し、医療で人々の笑顔を創り、人生を豊かにするお手伝いができているという実感を得ています。

今後は、私の美容医療、美容外科のあり方、そして志を、美容医療業界に携わる医師、医療従事者に啓蒙し、クリニックを訪れる患者さんに限らず、日本が安全で正しく満足出来る美容医療を受けられる国になるための活動を、積極的に展開して行きたいと決意しています。

■公式 YouTube チャンネル「ロンリー侍ドクター 美と健康、若返りチャンネル」

<https://www.youtube.com/@lonelysamuraidr>

■SO グレイスクリニックについて

【東京本院】

SO グレイスクリニック御殿山(美容外科)

【所在地】〒141-0001 東京都品川区北品川 5-16-25

【最寄駅】JR 線 品川駅・大崎駅（徒歩 10～15 分）、京急線 北品川駅（徒歩 10 分）

【大阪院】

SO グレイスクリニック大阪(美容外科)

【所在地】〒564-0063 大阪府吹田市江坂町 1 丁目 13-48 H F 江坂ビルディング 2F

【最寄駅】大阪市営地下鉄 御堂筋線・北大阪急行、南北線 江坂駅（出口 1 から 徒歩 4 分）

URL : <https://so-graceclinic.com/>

<報道関係者お問い合わせ先>

SO グレイスクリニック 広報担当 : 富永

TEL : 090-2664-2785 E-mail : info@so-grace.net